

OKoTaC 通信

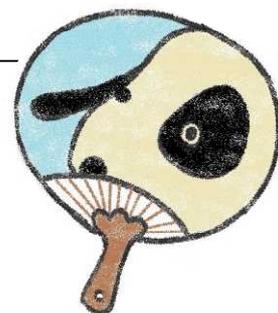
オコタック

2018年8月10日発行

NO.41



- P 2 **NPO活動報告(1)**
『第8回オコタック総会、および特別講演』
- P 3 **NPO活動報告(2)**
『阪急阪神 ゆめ・まちワークショップ
「世界の文字でネームストラップを作ろう！」』
- P 4 **多文化な子ども@大阪のニュース**
『特別卒校での思い出』(大阪府立八尾北高等学校 2017年度卒業式答辞から)
- P 5 **地域の子ども支援教室から㊿**
『日本語サロン』『Mixed Roots』(岸和田市)
- P 6 **Air Mail メキシコ便り㊿**
『ベリーズ(後篇)』
- P 7 **特別寄稿**
『「こどもひろば」によるダイレクトへの高校入試支援(後篇)』
- P 8 **2018年度多言語進路ガイダンス**
OKoTaC 通信 発行回数についてのお知らせ





おおさか子ども多文化センター 活動報告(1)

第8回オコタック総会、および特別講演

去る5月26日(土)、オコタックの2018年度総会をヒューライツ大阪セミナー室にて開催しました。会員84名中、出席者12名、委任状36名、合計48名で総会は成立しました。濱名理事長の挨拶ののち、事業報告、決算報告、理事の選任、活動計画、予算案の順に報告・提案が行われ、すべて承認されました。

今年度の活動計画では、新しく加わった取り組みとして、多文化な子どもの居場所と学習支援の場作りとしての「サタデークラス」、及び外国につながる子どもの学習塾「たぶんかじゅく」の運営を(特活)多文化共生センター大阪から事業継承することになりました。さらに、事務局の業務軽減をはかるため『OKOTaC 通信』の発行を年6回から4回に変更することも報告されました。

毎年、総会後に行われている特別講演は、毎日新聞エリア報道センター次長の中尾卓司さんに「子どもの夢応援・新聞記者と考える」というテーマでご講演いただきました。中尾さんはオコタックも参加している『子どもの夢応援ネットワーク』結成の提唱者の一人として、外国にルーツを持つ子ども支援に関わる個人、団体を「つなげる」役割を果たされました。講演では最初に『応援ネットワーク』結成の経過を話された後、「つなぐ、つなげる、つながる」について記者としてのご自身の活動について話されました。会員のおひとり、西村雅人さんが特に印象に残った話題についての感想を寄せてくださいましたので紹介させていただきます。(Y.H)

西村雅人(枚方市日本語ボランティアの会、オコタック会員)

中尾さんはまず日大アメフト部の問題に触れ、「一番守らなければならない学生を守らないで、大学は何を守ろうとしているのか」と厳しく批判。そして、監督・コーチの会見に登場して話題を提供した司会者に触れ、「彼は共同通信の記者だったが、もう二世帯も前の。ネット社会の今にまったく対応していない」と酷評したうえで、さまざまな社会課題に対してどう対処するか、と話を始めた。

1966年丙午(ひのえうま)の年に篠山市で生まれ、1990年毎日新聞社に入社したという中尾さん。入社した当時は手書き原稿、フィルムカメラ、ポケベルの時代だったという。今はパソコン、デジカメ、スマホを使ってどこでも原稿を書いて直ぐ送れるようになった。しかし、今も昔も新聞記者は現場では全て自分で考えて判断しなければならない、と強調した。

新聞は確実に販売部数が減っており新聞社への就職希望者も減っているという。新聞の作り方も、これまでは朝刊の締め切りに間に合うように原稿を書きあげて、というタイムテーブルがあったが、今はいつでも配信できるネットを重視するようになったとのこと。そのネット社会に対して中尾さんは「情報はあふれているが情がない」と言い切る。

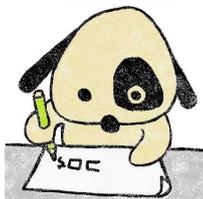
中尾さんは最近すごくいいことがあったと、一枚の集合写真を私たちにを見せてくれた。今年の4月8日の写真だという。4月8日とは25年前の1993年カンボジアで中田厚仁さんが国連ボランティアの活動中に凶弾に倒れた日だ。中尾さんと厚仁さんは国際貢献や将来のことを語り合った大学時代の友人だったという。その厚仁さんの遺志をうけついで国連ボランティア終身名誉大使として活動していたお父さんの中田武仁さんが2年前に亡くなられたとき、中尾さんは署名入りの記事を書いた。伝えようという思いを込めて書いた記事だという。中尾さんが見せた集合写真はこの記事を読んだ同窓生が呼びかけた集まりの時のもの。25年前の厚仁さんのことを昨日のこのように話す人たちがいたという。中尾さんの「情」あふれる記事が、人と人とのつながりをつくりだしたのだ。

中尾さんはその記事の中で、「日本を救うのはボランティア精神だ」という武仁さんの言葉を引き、「さまざまな社会課題を『人ごと』ではなく『自分ごと』ととらえて立ち向かう若い世代が国内にも現れているのが救いだ」と結んでいる。

「今年の私の目標はつなぐ、つなげる、つながる」だと精力的に活動する中尾さんの講演はとてもエネルギー感もあふれていたが、「自分で考え、判断するしかない」という言葉が強く心に残った。



中尾さんとともに



おおさかこども多文化センター 活動報告(2)

『阪急阪神 ゆめ・まちワークショップ』

「世界の文字でネームストラップを作ろう！」

6月23日(土)、阪急西宮駅前の「スタジモにしのみや」で、ワークショップ『世界の文字でオリジナルネームストラップを作ろう！』を実施しました。このイベントは、社会貢献活動の一環として以前からさまざまなかたちでオコタックを支援してくださっている(株)阪急・阪神ホールディングズとの協働企画です。

午前と午後あわせて3回実施したワークショップには、各回、就学前の子どもから小学校4年生までの親子20名ずつが参加しました。中にはペルーやネパールにルーツをもつ子どもの姿もありました。まず初めに、タイ語やネパール語、韓国語ネイティブのスタッフが登場、それぞれの言語で「こんにちは」を教えてくださいました。みんなで一緒に声に出して挨拶を交わしてみると、会場は一気に打ち解けた雰囲気になりました。



ネームストラップ作りは、キリル文字やデーバーナガリー文字、ハングルなど5種類の外国文字の50音表で自分の名前の文字を探し、それを透明な薄いプラスチックのシート(プラ板)に、イラストとともに書き入れます。子どもたちは初めて見る外国の文字に興味津々。プラ板が小さいため、どれか一つだけ言語を選んで名前を書いてもらう想定だったのですが、「やっぱり全部の文字で書きたい～」という子もいて、みんな時間いっぱいまで夢中で取り組んでいました。

また、その後の絵本の読み聞かせでは、『おおきなかぶ』のかけ声を一緒にタイ語で言ってみたり、『きんぎょがにげた』を読みながら「金魚はどこ？」「そー！」というクイズ形式のやりとりを、教わったばかりのネパール語で楽しんだり、外国人スタッフと子どもたちが自然体で交流する様子が見られる、とてもアットホームなひとときとなりました。

今回のワークショップを通じて子どもたちは、世界には、英語のほかにもさまざまなことばや文字があることを、楽しみながら体験を通して知ることができました。そしてそこから、「それぞれの国のお友だちが、かけがえのない文化を持っていること」を感じ取ってくれたら嬉しく思います。外国人スタッフとして文字指導や読み聞かせを手伝ってくださった李聖淑さんが、当日の感想を寄せてくださいましたのでご紹介します。(AN)

『ゆめ・まちワークショップ』に参加して ——

(李聖淑 (イ・ソンスク))

イベントの最初に行われたのは、韓国語スタッフとして参加した私や、その他のネパール語スタッフたちの自己紹介と、「母国のおすすめの食べ物話」。子どもたちは、興味深い表情をして聞いていました。そして、みんながネパール語と韓国語でのあいさつを、ためらいもなく元気よくしてくれて、とても嬉しく思いました。

続いて、世界の文字で作るネームストラップ作りが始まりましたが、ひらがなやカタカナとは全く異なる初めて見る外国の文字なので、難しい作業になるだろうと思っていました。しかし、子どもたちは戸惑うこともなく自分の名前を、小さな手を動かしてプラ版に正確に書いていたので、その集中力にびっくりしました。また、絵本の読み聞かせの時には、絵本の近くに寄り集まって、「その本、知ってる、家にもその本、ある、ある！」などと大きな声で嬉しそうに言いながら興味を示していました。私が読んだ絵本は、子どもたちがよく知っている日本の作品『ぞうくんのさんぽ』の韓国語版でしたが、実際に日韓二つの言語で読み聞かせが始まると、真剣に耳を傾けて聞き、音の響きを感じている姿が見えました。ネパール語の読み聞かせの時も、ネパール語を使って読み手と受け答えをしましたが、子どもたちのネパール語の流暢さが読み聞かせを盛り上げてくれ、子どもだけではなく周りの大人のテンションも高くなりました。

今回参加した子どもたちは年齢が小さい子どもたちでしたが、自分と異なる文化に違和感を感じることなく、ありのまま楽しむ、そして自分の思いや感じたことを積極的に発信するなど、外国語や異文化に対して非常にポジティブであると感じました。親しんでくれる子どもたちのそばで、私も緊張がほぐれて楽しむことができました。



『特別枠校での思い出』(大阪府立八尾北高等学校 2017年度卒業式答辞から)

ヒララル カンデル

編集部より

ネパール出身のヒララル カンデルさんは2018年3月の卒業式で、全卒業生の代表3人のうちのひとりに選ばれ答辞を読みました。カンデルさんと八尾北高校の了解のもと、答辞をそのまま掲載します。彼は入学当時は多くの渡日生と同様に日本語に悩みました。しかし、なみなみならぬ努力により、卒業する頃には相当の日本語力をつけていました。高い学業成績だけでなく生徒会の執行役員としても活躍するなど、充実した高校生活を送りました。そして現在は、アジア太平洋立命館大学国際経営学部1年生です。



僕は八尾北高校にとっても感謝しています。「八尾北高校がなければ、今の自分はない」と心から思います。八尾北高校で出会ったすべての方々に感謝するとともに、僕たち外国人生徒のために門を広げてくださった、特別枠入試の制度にも深く感謝します。



僕は4年前、日本に来ました。家族の事情で日本に行くことになりましたが、日本に行きたくありませんでした。自分の母国であるネパールで高校生活を送りたかったからです。日本に来てから、その思いは更に強くなりました。日本語が全く分からず、友人もできず、食べ物も自分に合わず、「ネパールに帰りたい」と思っていました。

そんな中、八尾北高校に入学しました。ようやく日本の高校に入学できて嬉しかったけれども、母国とは全く違う環境でとても不安でした。不安は的中し、日本語でおこなわれる授業の内容はほとんど理解できなかつたし、クラスで友人はほとんどできませんでした。

しかし、オアシス(特別枠生徒の部活動および教室 編集部注)の教室に帰ると、同じ立場の外国人生徒がたくさんいて仲良く話すこともできたし、オアシスの先生方には分からないことを丁寧に教えていただきました。オアシスは自分にとって「安心できる居場所」でした。

日本語が分かるようになってきてからは、教室でもたくさんの友達ができました。初めて自分に日本の友達が話しかけてくれた時は、本当に嬉しかったです。ネパールのことに興味をもってくれて、いろんなことを話すことができた時、心から嬉しいと思いました。自分が困っている時は助けてくれたり、自分の不安を理解してくれたり…。八尾北高校で出会った友達には感謝の気持ちでいっぱいです。

オアシスでは、今まで自分がやったことのない貴重な経験をたくさんすることができました。

朝・放課後、毎日ずっと練習し続けた踊りや獅子・龍の舞。先生に怒られたり、毎朝眠い思いをしたりしながら、しんどいと思った日も多かったです。でも、本番を終えた時、今まで味わったことのない達成感を感じることができました。

地下鉄ボランティアも貴重な経験でした。自分と同じ立場の外国人に、地下鉄の乗り方や道を案内するというのは、今までやったことがありませんでした。でも、一生懸命案内し、「ありがとう」と言われた時、自分が人の役に立てたことを嬉しく思いました。

3年間はあっという間で、今日卒業の日がやってきました。僕は最後にネパール語でメッセージを伝えたいと思います。

(ネパール語)3年間はあっという間に過ぎました。八尾北高校では、たくさんの素敵な出会いがありました。僕は卒業後、大学に進学し、様々な国で活躍したいと思っていますが、八尾北高校で自分がしてもらったように、困っている人がいれば手を差し伸べることができる人になりたいと思っています。すべての人々が隣の人に手を差し伸べることができれば、みんなが安心して生きられる世界になるのではないかと思います。このことを僕は八尾北高校の3年間で学びました。八尾北高校で出会った仲間、先生、すべての方々に感謝します。ありがとうございました。

2018年3月1日 卒業生代表 ヒララル カンデル



～地域の子ども支援教室から～㊦

『日本語サロン』『Mixed Roots』(岸和田市)

岸和田市国際親善協会が主催する5つの『日本語サロン』では、毎週常時 80 名前後の外国の方々が日本語や日本の文化習慣を学んでいます。これまで日本語支援を必要としていたのは岸和田近辺で働いている成人が中心でしたが、最近は技術者や個人経営者が家族を伴って来日する



ケースが増え、学齢期の子どもがサロンにもやって来るようになりました。現在、ネパールがルーツの小学生、中国、イラン、サウジアラビア、ペルーがルーツの中学生数人が在籍しています。

しかしながら、これらの日本語サロンは、ひとつは金曜日の昼間、他4つは夜間開講のため、特に低学年の子どもには通にくいものでした。そこで昨年度から毎週土曜日午後の2時間、『Mixed Roots』という子ども向けの日本語支援クラスを開設しました。当初はインドネシア、ベトナム、中国、

ネパールと国際色豊かに発足しましたが、帰国したり、仕事や家庭の事情で保護者同伴が難しく来られなくなったりして、今年度は中国とアフガニスタンの2家族に減り、開講回数も第2・第4土曜日の月2回になりました。生徒は『日本語サロン』と同様に随時募集していますので、いつからでも参加していただけます。

このような経緯で子ども向けの『Mixed Roots』を開講しましたが、他にも日本語に困っている子どもたちは学校現場にまだたくさんいました。そこで教育委員会と交渉し、今年度より新たに『日本語指導補助員派遣制度』発足にこぎつけました。これは、学校で取り出し形式により日本語指導を行うというものですが、従来、教育委員会は日本語を理解できない子どもに「通訳」を派遣し、授業に入り込んでの学習サポートを行っていました。もちろん最初は通訳が活躍しますが、少し日本語に慣れてきた子どもたちには、やはり日本語指導が必要です。市内の小中学校からの派遣依頼を受けて、『日本語指導補助員登録者』の中から派遣します。現在すでに小学校1校、中学校1校で、ネパール、フィリピン、アフガニスタン、イランにルーツを持つ5名の児童・生徒に日本語指導を行っています。

岸和田市国際親善協会は今後も外国にルーツを持つ子どもたちの支援の輪をさらに広げるため、行政にも積極的に働きかけていきます。また言葉の面での支援を行う以外にも、多文化共生社会を目指して様々な楽しいイベントを企画運営しています。こうした活動を共に支えて下さる日本人会員も随時募集していますので、興味のある方は下記連絡先までお問い合わせください。(岸和田市国際親善協会 事務局 藤平敬子)

【Mixed Roots】

対象：小学生・中学生・高校生(入会不要)

場所：岸和田市荒木町 1-17-1(マドカホール内) 3階視聴覚室

日時：毎月第2・第4土曜日 13:30～15:30



【日本語サロン】(毎週5サロン開催)

対象：外国にルーツのある方なら誰でも(要入会*)

○火曜日：岸和田市箕土路町 2-6-15 箕土路青少年会館 19:00～20:30

○水曜日：岸和田市岸城町 5-8 岸和田市職員会館 19:00～20:30

岸和田市春木若松町 21-1 春木市民センター 19:00～20:30

○金曜日：岸和田市野田町 1-5-5 岸和田市福祉総合センター 19:00～20:30

岸和田市土生町 4-3-1 東岸和田市民センター 13:30～15:00

* サロン参加は無料ですが、親善協会への入会が必要です。年会費はサロン生を含む学生会員 1,000 円、一般会員 2,000 円。

【日本語指導補助員派遣】

対象：市内小・中学校在学学生(入会不要) ※ご希望の場合は、学校を通じてご連絡ください。

* 上記すべての問合せ先：岸和田市国際親善協会事務局 (火～土曜日 10:00～16:00)

大阪府岸和田市荒木町1丁目 17-1(マドカホール内)

TEL/FAX: 072-457-9694

E-mail: kokusai@sensyu.ne.jp

http://ifa-kishiwada.rinku.org/



海外からのたよりをお届けします～

「メキシコ便り③ ベリーズ(後篇)」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

カリブ海にすっかり元気にももらい、次の日はベリーズ・シティーに戻り、ここから北に約 50 キロのところにあるマヤの遺跡アルトゥン・ハに行きました。公共のバスはないのでタクシーを使い 50 分です。運転手のマヌエルは陽気な黒人で、レゲエを大音量でかけながら、別れた妻がメキシコ人だったとかでス

ペイン語でしゃべりまくります。私がラム酒が好きだというと、途中で車を止めてラムとコーラを買いこみ「ラムはコーラで割るのが一番うまいんだ」とか言いながらすすめてくれます。レゲエにラムとすっかりリラックスした私を、マヌエルはガイドもできるといいながら、アルトゥン・ハ遺跡をすみずみまで案内してくれました。

アルトゥン・ハというのは、マヤの言葉で岩の沼という意味です。1300 年の間、都市国家が存在しており、紀元後7世紀ごろが最も栄えたといわれています。ふたつの広場と宮殿、神殿が残り、一面緑の芝生におおわれたとても美しい遺跡です。マ

ヌエルは「どうだ、きれいだろう、フォトフォト」と何度も遺跡の前に私を立たせ、写真をとってくれ、すっかりごきげんです。

そして次の日は緑一杯の川に連れて行ってくれました。大きな浮き輪におしりを沈め、川を流されながらの水遊びです。涼しくてあまりの気持ちよさについてうとうととしてしまいましたが、マヌエルがしっかり浮き輪をつないだ紐を持っていてくれるので安心です。2日間専属運転手をしてくれ、「もう帰るのか」と不服そうな顔をみせながら空港まで送ってくれました。

ところでベリーズの公用語は英語ですが、スペイン語を話せる人も多くいます。それはグアテマラやホンジュラスからの移民が多いためです。より安定した豊かな国、ベリーズで働くため彼らはやってくるのです。外国人の私がスペイン語で彼らに話しかけると少しびっくりしたように、でもうれしそうに答えてくれます。港の前で小さな店を出すアンドレアは 13 年前ホンジュラスからベリーズに一人で来たそうです。そのわけを聞くと「ホンジュラスは貧しくて危険だから」と言い、クーデターに心を痛めているようでした。

確かにベリーズは他の近隣諸国に比べると豊かなのでしょう、働いている子どもを見かけません。昼下がりに公園に行くと、たくさん子どもたちが楽しそうに海で遊んでいます。私がカメラを向けると次々とかっこよく海に飛び込んでみせてくれました。そして女の子たちはびっくりするようなセクシーなポーズをとります。

このように底抜けに明るい子どもたちを見ながら、グアテマラで山の上にある家とアテイトラン湖の間を毎日2時間かけて往復しながら洗濯していた 10 歳のアナや、メキシコのチアパスで観光客にバナナを売っていた 6 歳のマウラ、4 歳のパウチョ姉弟を思い出してしまいました。



特別寄稿『「こどもひろば」によるダイレクトへの高校入試支援』(後篇)

こどもひろば 事務局長 鶴飼聖子

編集部より

前号(40号)では“ダイレクト”で府立高校を受験する生徒への学習支援について、こどもひろばの鶴飼さんに報告をいただきましたが、今号では“ダイレクト”の生徒・保護者が最も困難をきたす、公立高校受験への「資格審査」をどのように支援するかに答えていただきました。

まず、12月の決まった時期に教育委員会への「事前相談」の予約をする。それまでにあらかじめ保護者に来日事情、生育歴、修学歴、生活実態を聞き、卒業証明書の有無、及び在留資格の確認をする。来日時に卒業証明書を帯同していなければ取り寄せる必要があるが、もし紛失していた場合、改めて母国の学校に再発行を依頼しなければならず、時間がかかるので要注意だ。また各国の教育制度に通じていなければ証明書の内容の理解ができないし、言語によっては翻訳が必要な場合もあり、こちらも時間を要する。

「事前相談」で教育委員会担当者に、来日事情や修学歴など詳しく説明をし、受験したい旨を伝える。「応募資格審査」の申請が妥当と判断されると「入学志願特別事情申請書」が交付され、提出すべき書類が指示される。さらに、特別枠の申請書、帰国生枠を希望する場合の必要書類などについてもこの時に説明がある。この面談は、内容と使われる用語が難しいため、制度や手続きに精通した支援者が仲介者として必要だ。保護者の日本語が十分でない場合は、支援者以外に必ず母語支援者を通訳として伴うようにしている。



事前相談の様子

また2月入試が不合格だった場合に備えて、3月一般入試受験のための手続きも同様にする。1月末の「応募資格審査」までに指示された諸書類(卒業証書、住民票、渡航歴の証明またはパスポートなど、場合によっては住居に関する証明書なども求められる)を用意する。複数の申請書の記入、押印の仕方からコピーの準備まで、こどもひろばスタッフが丁寧に手伝う。一昨年からスタッフ1名が2名程度のダイレクト受験生を担当し、複数のスタッフがチームとして活動して経験を積んでいる。

無事「承認書」をもらったら、更に入学志願書を完成させて、種々の書類と一緒に高校に提出、出願する。受験料の納付のため当事者と銀行に同行することもある。このほか配慮申請なども同時に手続きし、「特別枠」入試受験の承認書や配慮に関する「通知」の交付も別途なされるので、これにもスタッフが当事者を引率し、対応する。

私たちの活動には、学習支援と手続き支援、さらにもう一つ大切な活動がある。受験する高校を選択するための情報提供と進路ガイダンス、体験入学や学校説明会への引率だ。特別枠や帰国生枠を実施している高校の特徴や所在地を検討し、受験生の選択肢として比較検討できるように、複数の高校をピックアップし、体験入学などに申し込み、同行する。できるだけ保護者にも参加を勧めて引率する。ダイレクト受験生が14名と多かった一昨年は13回、のべ30人を引率した。昨年度は2名に対し6校に引率した。

最終的な出願先の選択はもちろん本人と保護者だが、受験希望者数の新聞発表や周辺の情報、これまでの経験から、合格の可能性について検討し、保護者や本人と面談を繰り返す。

出願の際に自己申告書が必要な場合(帰国生枠)、その指導も1月くらいから始める。母語で書いてから本人の日本語能力に合わせて、日本語で書き直すという手順を踏むようにしている。当然ながら面接の練習も必須となり、ボランティアスタッフが面接官の役回りをすることもある。

ダイレクト受験生が高校にたどり着くためにはこのような支援活動が欠かせない。通常の教室活動以外の補習、保護者面談や各種手続きや説明会への付き添い、子どもの様子や学習の進捗状況、学力把握や課題の確認など、担当スタッフは常に話し合いながら支援活動を続ける。多くのダイレクト受験生は孤独な生活の中で「こどもひろば」を居場所とし、同じ立場の受験生と出会い、日本語、英語、数学に取り組む。こどもひろばスタッフは出会ったその日から合格発表まで、彼らを応援し、支えつづける。そして4月、こどもひろばに「高校生」として、制服姿を見せにくる彼らの、底抜けに明るい笑顔がスタッフの喜びだ。

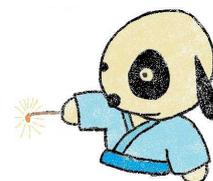
2018年度多言語進路ガイダンス

今年度も渡日の中学生が府立高校に進学する際に必要な情報・高校別説明などが提供されます。
ぜひ、生徒本人、保護者、支援者などと共に参加しましょう。

主な内容

- (1) 高校入試制度等の説明
- (2) 高校紹介
- (3) 先輩の体験談
- (4) 個別進路相談
- (5) その他

この表の日時は予定です。
参加する場合は、必ず下記の
機関に問い合わせてください。
在住地区教育委員会、あるいは
大阪府教育委員会事務局
市町村教育室小中学校課
06-6941-0351 まで



地区	開催日	時間	会場	予備日
豊能地区	11月3日(土)	13:00~ (予定)	とよなか国際交流センター	11月4日(日)
三島地区	10月20日(土)	13:30~	高槻市役所総合センター	
北河内地区	10月28日(日)	12:00~	四條畷市市民総合センター	11月11日(日)
中河内地区	10月19日(金)	16:30~	八尾市役所	
	10月29日(月)	19:00~	八尾市役所	
	10月20日(土)	13:30~ (予定)	東大阪市役所	
南河内地区	10月14日(日)	13:00~	富田林市消防本部	
泉北地区	10月21日(日)	10:00~	堺市立三原台中学校	
泉南地区	10月14日(日)	13:30~	府立佐野高等学校	10月21日(日)
大阪市	7月20日(金) 済	15:00~	大阪市立南高等学校	
	9月30日(日)	13:00~	大阪国際交流センター	

『OKoTaC 通信』発行回数についてのお知らせ



いつも、『OKoTaC 通信』をお読みいただき、ありがとうございます。

本号2ページの総会報告でお知らせしましたが、『OKoTaC 通信』の年発行回数をこれまでの6回から4回に変更します。オコタックが創立されてから8年が過ぎましたが、おかげさまでオコタックの事業が年々増えるなかで、事務局の業務量が追いつかない状態になっています。そこで、より充実した事業を行うため、業務の見直しを行う中で、以上の決定をしました。発行回数は少なくなりますが、記事内容は、より充実させていきたいと考えております。これからもみなさまのご理解とご協力をいただければ幸いです。

(編集部一同)

NPO 法人 おおさか子ども多文化センター (OKoTaC) 代表 濱名猛志

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com URL <http://okotac.org>

郵便振替【記号・番号】00940-1-272824

他金融機関からは【店名】〇九九(ゼロキュウキュウ)

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824

口座名義『NPO法人 おおさか子ども多文化センター』

〔フリガナ:トクヒ〕オオサカコドモタブンカセンター

